第２学年２組国語学習指導案

平成27年10月５日(月)　第５校時
場所　２年２組教室　指導者　寺前　孝子

１　単元名　　音読劇をしよう「お手紙」(光村図書２年下)

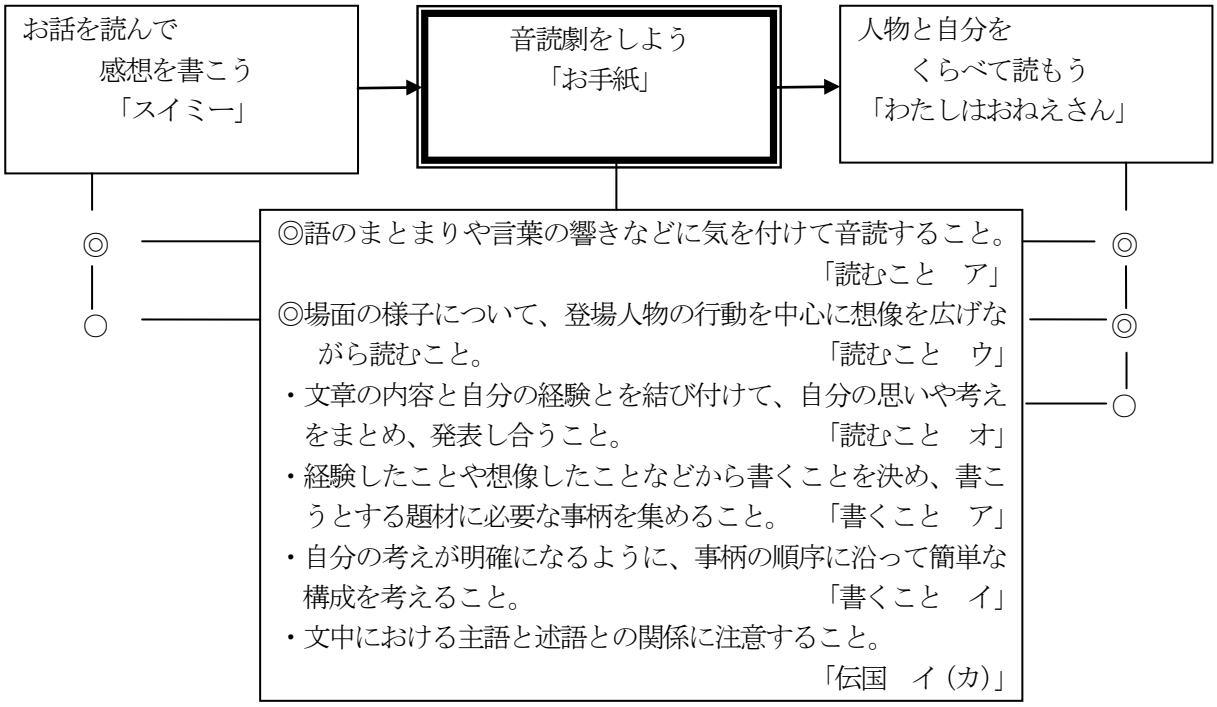
２　単元について

(1)　本単元は、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることをねらいとしている。声だけでなく、簡単な体の動きを加えて表現する学習することによって作品の読み取りを深めることにつなげていきたい。

本教材は、手紙を一回ももらったことのないがまくんと、がまくんを一生懸命励まそうとするかえるくんの心の交流を描いた物語である。登場人物の会話文が多いこと、様子や動作が分かりやすく書かれていることから、役割を決めて音読をしたり、動作化をしたりしながら、登場人物について想像を広げていくことができる。また、場面ごとの挿絵を手がかりにあらすじを捉え、気持ちの変化に目を向けることができる。

この教材を学習することで、温かいほのぼのとした二人の心の交流や優しさに気づき、自分の体験と重ねながら読みの世界を深めていくことができると考える。また、友達との読みの違い気づき、友だちと学ぶよさや楽しさを実感させたい。

(2) 本単元の指導事項の系統は、次のとおりである。



(3) 子どもの実態は、下記のとおりである（人)。＊　①～⑤は自己評価

①　国語の授業が好きか（意欲)。

好き　(14人）まあ好き（10人）あまり好きではない（8人）嫌い（1人）

②　国語で好きな学習は何ですか。(意欲)。

物語り（25人）説明文（5人）作文（11人）日記（17人）音読（11人）漢字（20人）

③　自分の考えを友達に伝えることができますか。(意欲・思考)

できる（　13　人）まあできる（　11　人）あまりできない（4　人）できない（5　人）

④　授業中の友達との話し合いを自分の勉強に役立てていますか（思考)。

役立っている（10人）まあ役立っている（12人）あまり役立っていない（10人）役立っていない（1　人）

⑤　読書は好きですか。

好き（25人）　まあまあ好き(4人）　あまり好きではない（２人）　嫌い（２人）

・　意識調査より、国語の学習では、物語の学習が好きと答える子どもが多く、読書に対する意識も高いことが分かる。しかし、発表や話し合いにおいては、自信を持てない子ども、学習のまとめに役立てることができていない子どもが３割ほどいる。
・　１学期の「ふきのとう」では、音読で役割読みを行った。ほとんどの子どもたちが、「　」が誰の言葉か分かることができた。叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取っていったが、音読の読みの工夫に繋がらない子どもが多く、たくさんの練習時間が必要であった。
・　１学期の「スイミー」では、課題に対する根拠を叙述から探せる子どもはまだ半数ほどで、一つ一つ叙述を確認しながら学習をすすめていく必要があった。

⑷ 本単元の指導にあたって、次の点に留意する。

【視点１：課題に主体的にかかわろうとする意欲を高める取り組み】

・　本単元では「１年生に、音読劇をきかせよう」という、単元を貫く言語活動を設定した。声と簡単な動きを加えて表現する「音読劇」をすることで、登場人物の行動と会話から想像を広げて読む力を身につけることができると考える。さらに　１年生に聞いてもらうということで、『1 年生に「自分たちもしてみたい」と思ってもらおう』という相手意識・目的意識を明確にさせ、単元を通して、主体的、協働的な学びへとつなげたい。

【視点２：読解力をつけるための取り組み】

・「お手紙」は、会話文が多いので、誰の言葉かを明確にするために、会話文を色分けさせる。
・　音読劇に向けて、読みたい部分をどのように読むか考える学習を設定することで、場面の様子や状況を把握することができるようにする。読みたい部分を選び、そこをどう読むのか、なぜそう読むのか叙述をもとに考えさせることによって、叙述に即した読みができるようにする。

【視点３：読み・書きの基礎基本を定着させる取り組み】

・「お手紙」と関係のあるシリーズ本や、アーノルド＝ローベルが描いた本を並行読書させることにより、がまくんとかえるくんの性格や二人の関係を理解させたり、アーノルド＝ローベルの世界観に浸らせたりする。
・　学習計画と学習の軌跡の掲示をおこなうことにより、学習の見通しを持たせるとともに、登場人物の気持ちの変化を理解させる。

⑸　人権教育の視点から、話し合いのときは、自分の意見を自信を持って発表できるよう、ペアでの交流の場を設定する。また、友だちの発表を肯定的に受け入れるような雰囲気づくりを行う。

３　単元の目標

◎　場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。
○　手紙を書く楽しさを知り、物語の登場人物に言ってあげたいことを手紙に書くことができる。
・　物語を読み、自分の経験と結び付けて、感想を発表し合うことができる。

４　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと
自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとしている。	時、場所、人物の出来事や場面のごとの様子を読み取り、人物の気持ちを想像しながら、人物の様子や気持ちが表れるように音読している。	手紙のよさに気づいて、自分の思いを手紙に書いている。

５　学習計画（全１２時間、本時は６時間目）

次	時	学習内容	教師の関わり	評価規準（評価方法）
1	1	○　「お手紙」を読んで心に残ったことやおもしろかったこと、不思議に思ったことなどを初発の感想に書く。 ○　これまでの音読の学習を振り返り、音読劇について知る。	○　教師が読み聞かせを行い、初発の感想を書かせる。 ○　音読劇について知らせ、学習の見通しを持つ。楽しく単元を学習するために、相手意識、・目的意識をはっきりさせる。	【読】　本文の内容に即した初発の感想を書くことができる。（シート） 【関】　音読劇に関心を持ち、学習に取り組んでいこうとしている。（観察）
	2	○　本文や挿絵をもとにあらすじを捉え、場面を４つに分ける。 ○　学習計画を考え今後の学習の見通しを持つ。	○　時間や場所の移り変わりや人物の行動に注目させ、場面を４つに分けさせる。 ○　相手意識・目的意識を持って学習に取り組めるよう、計画表を提示する。	【読】　場面の理由としてそれぞれの場面に小見出しを書くことができる。（シート） 【関】　学習計画を理解し、進んで学習に取り組もうとしている。（シート・発言）
2	3	○　手紙をもらえないがまくんの悲しさとそれを聞いて心を痛めるかえるくんの気持ちを読み取る。	○　「手紙」という言葉についてのイメージを自分の日常生活と関連させて、がまくんの気持ちを想像させる。	【読】　がまくんの悲しい気もちとかえるくんの気持ちを読み取ることができる。（シート・発言）
	4	○　がまくんを思いながら手紙を書くかえるくんの気持ちを読み取る。	○　動作化を取り入れ、かえるくんの気持ちを想像させる。	【読】　かえるくんのがまくんに対する気持ちを読み取ることができる。（シ・発）
	5	○　手紙を諦めて悲観的になっているがまくんとがまくんを励ますかえるくんの気持ちを読み取る。	○　がまくんとかえるくんの言動を比べながら、それぞれの気持ちを想像させる。	【読】　がまくんとかえるくんの言動を比べて、気持ちの違いを読み取ることができる。（シ・発）
	6 本 時	○　手紙を出したことを打ち明けるかえるくんとそれを聞いたがまくんの気持ちを読み取る。	○　がまくんの気持ちの変化が表れている言葉に注目させ、その変化を想像させる。	【読】　がまくんの気持ちの変化を読み取ることができる。 （シ・発）
	7	○　手紙を待っている時の二人の気持ちを読み取る。	○　どうして、長い間まっていたか想像させ、幸せについて考えさせる。	【読】　二人の幸せな気持ちを読み取ることができる。 （シ・発）
3	8 9 10	○　発表会に向けての話し合いを行い、発表する場面の台本作りを行う。 ○　音読劇の練習をする。	○　音読劇用の台本（シート）に、学習したことを生かして、どう読むと良いか、どう動作を入れるか、書き込みをさせる。	【関・読】これまでの学習を生かして、進んで話し合ったり、練習したりできる。（台本・観察）
	11	○　発表会をする。 （1年生を招待する）	○　台本に記入していることを生かしながら音読させる。	【関・読】これまでの学習を生かした音読劇をすることができている。（音読発表観察）
	12	○　「お手紙」の登場人物にお手紙を書く。	○　二人の人物について思い出させ、自分が音読劇をした感想も含めた手紙を書かせる。	【書】登場人物へ心温まる手紙を書くことができている。 （手紙シート）

６　本時の学習

(1) 目標

がまくんの気持ちの変化を読み取り、音読することができる。

(2) 本時の主張点

①　（視点１より）読み取った気持ちが「音読劇」へつながるよう、音読記号や表情などを、「音読劇台本」に記入させる。

②　（視点２より）叙述に即した読みとなるよう、根拠になる文を本文から書き抜きさせるための「本時の学習シート」を工夫する。

(3) 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点及び評価　☆…評価	教具等
3	１　単元全体の課題を確認し、前時の学習を振り返る。	○　学習計画の掲示を用い、前時までの読み取りで分かったことを振り返らせる。	学習計画表
2	２　本時のめあてを確認する。		
	がまくんの気持ちがわかるように、音読しよう。		
			挿絵
20	３　3 の場面後半を音読し、かえるくんとがまくんの気持ちを想像する。 (1)　がまくんの気持ちが分かる「ああ」「いいお手紙だ」について叙述をもとに一人で考える。 (2)ペアで話し合う。 (3)全体の場で交流する。	○　誰が言った言葉かを確認させるために、役割読みをさせる。 ○　初発の感想をもとに、がまくんの気持ちが変化したところを押さえ、今日みんなで、特に気をつけて音読したいところをしぼる。 ○　「親愛なる」「親友」は難しい言葉なので、その意味を押さえる。 ○　最初の場面の「ああ」とこの場面の「ああ」を比べさせ、意味の違いからくる、読み方の違いに気づかせる。 ○　ペアや全体の場で交流させることによって、多様な考えに触れさせたり、書けなかったところに記入させたりする。 ☆　がまくんの気持ちを想像し、書くことができる。（シート）	本文の拡大 学習シート
15	４　考えた読み方を　発表し合う。 (1)ペアで練習する。 (2)発表する。	○　前に音読した時の様子を映像で見せ、「もっと、こうしたほうがいい」ということをイメージさせる。 ○　考えた読み方をもとに、ペアで発表させる。 ☆　書き込みや学習したことを生かして、役割読みをすることができている。（観察・発表）	モニター画像 台本シート お面 ビデオ
5	５　今日の学習を振り返って、がまくんへお手紙を書く。	○　今日の学習で、わかったこと、自分の考えの変わったところなどを、お手紙として書かせる。	